

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0174700864	
法人名	有限会社ひまわり	
事業所名	グループホーム土幌ひまわり館・笑顔	
所在地	河東郡土幌町字土幌西2線166番地10	
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日 平成29年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月担当者が月の様子を手紙に書き写真等を同封しご家族に送っている。地域の方々へ夕涼み会等の行事に参加して頂いたり、災害時等緊急時には一斉通報にて避難訓練にも参加、ご協力頂いている。
温泉日帰り旅行や、鍋会等ご家族に参加して頂き共に楽しませている。
週に1回食べたいものを聞き取りメニューに反映している。
個室にトイレ・洗面台がありプライバシーが確保されている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ijyosyoCd=0174700864-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、帯広市の北方面にある土幌町の閑静な住宅地に位置しており、平屋建て2ユニットのグループホームである。隣接して、病院や総合福祉センター、特別養護老人ホーム、ケアハウス、障がい者総合施設や公民館などがあり、当事業所も含めて土幌町「福祉村」を構成しており、町内の福祉関係事業所と連携して運営し、町民からの信頼も厚い。グループホーム2ユニットの内、1ユニットはケアホーム笑顔として、認知症高齢者と障がい者の共同生活の混合型グループホームで、認知症高齢者グループホームではあまり例がない先進的な取り組みで、職員は認知症高齢者の介護と障がい者の生活支援を前向きに努めている。法人は、音更町にもグループホームを運営しており、法人内の各委員会(虐待防止・災害対策・看取り・事故防止委員会)は各ユニットから職員が参加して、事例を検討し、意識啓発やサービスの向上に活かしている。ホーム内は、中央に広い共用空間の食堂とリビングがあり、利用者はいつも居心地よく寛いでいる。居室内は、洗面所とトイレが設置されプライバシーに配慮している。庭にはデッキや菜園があり、事業所主催の夕涼み会は地域の方が50名ほど参加するなど、地域の楽しみな行事となっている。また、災害等の緊急時には、代表者が自ら開発した一斉通報システムにより、同時に関係者に通報する画期的なシステムである。地域から信頼されている事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人が理念を実践出来るように、全職員から意見を集め今年度新たに理念を作成中。3月末に決定し、来年度から施行予定である。	全職員の意見をもとに完成した事業所理念「その人らしさを大切に、笑顔と幸せをサポートします」を新年度から共有し、実践に繋げていく予定である。	新しく事業所の理念を職員で作成し、実践につなげるように努めているが、職員会議などで、定期的に振り返りを行ったり、申し送り時に唱和するなどして職員間で絶えず共有に努めるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、避難訓練に地域の方が参加して頂いている。日常生活でも散歩の際に休憩所として庭を提供して頂け、お話等もさせていただいている。	お祭りや盆踊りなどの町内行事には積極的に参加している。事業所が主催する夕涼み会は盛大で、ボランティアの協力もあり、地域からたくさんの方が訪れてくれて楽しい交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練やホームの行事等に参加して頂き、入居者の支援の方法や理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施している。利用者の現状報告、事故報告、行事報告等委員の方に意見を頂き改善策を話し合いサービスの向上に繋げている。	会議には町や社協職員、町内会、民生委員、学識経験者、地域・家族の方が参加し、定期的開催されている。事業所から運営状況の報告を行い、意見や要望を聞いてサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の主催する地域包括会議等に参加している。	年5回ほど行われる町の会議に参加したり、担当者とは会う機会も多く、日頃から情報を共有して協力関係を深めるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していないが、入居者の転倒防止、日中徘徊する入居者がいるので、玄関にセンサーを設置し、外に出る時は職員が付き添うケアをしている。	全職員が禁止の対象となる行為を正しく理解できるようマニュアルが作成されており、定期的研修を行い、委員会が中心となって話し合っており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、委員が中心となり職員の意識を高めるとともに、日々のケアの中で間違いがないか確認を行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ、社内講習会を開いた。必要な人には情報を提供し、支援しており、制度を利用されている利用者も居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が事前面接や契約時に不安や疑問を十分に説明し、理解、納得頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて、入居者代表、家族代表を交えて意見をいただき反映させている。来訪時等、個別に要望を聞いている。玄関に意見箱を設置している。	利用者の様子は、写真付きの手紙を担当者が作成して毎月家族へ送付している。玄関に意見箱を設置したり、家族が訪れた際には意見、要望を聞くようにしてそれらを反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やスタッフ会議で意見を反映している。職員間の申し送りノートを活用している。	毎月行われる管理者会議やユニット会議のほか、申し送りノートも活用して職員の意見や提案を確認している。代表者の個人面談もあるが、よく事業所を訪れているので、日頃から話す機会が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価の実施にて、実績に応じて給与に反映されるなど、各自がやりがいを持って働くよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材開発計画により、自己研鑽費として、各個人に対し、希望する研修・書籍の購入などができ、スキルやモチベーションの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修等参加した際に、同業者と交流する機会があり情報交換をし、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームを訪問していただき要望、不安な事などを聞き取り、職員に周知している。安心した生活が送れるよう日々、入居者の話に耳を傾け関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居受け入れ時、管理者・看護師が電話や事前面接などで、ご家族から良く話を聞き、安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受け入れ時、管理者が作成した事前面接表や情報提供書を基に、ケアプランを作成している。職員も情報共有し、今までの生活を維持できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での、仕事などを分担し、助け合いながら生活することで、個々の役割や助け合いの関係を築いている。また、日々積極的に会話をする中で、信頼関係の形成を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館された際に、話をすることで、利用者の情報を共有したり、出来る範囲での役割や関わりをお願いし、支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の負担にならない範囲で、外出や買い物、理美容室など以前の生活の関係が少しでも途切れることのないよう、支援に努めている。	職員が同行したり家族の協力を得て、馴染みの理美容院や住んでいた家、墓参りなどに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話に耳を傾け、情報共有したり、職員内でも情報共有し対応しているが人としての好き嫌いがある中で、全員が負担なく心地よく暮らすには課題が残る。レクリエーションや席を変える等の支援を実施している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了していても、お盆時期には墓参りに行ったり、訪問し仏前に手を合わせる等している。また、年賀状を送る等、断ち切らない関係づくりを大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから希望や意向の把握に努めケアプランを作り、モニタリングをしその人に沿った支援をしている。	日頃の会話や個別の記録から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、家族、利用施設等から詳しい情報をいただいている。家族には、センター方式の記入にもご協力いただき情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議などでADL等の状況を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で課題を出し合い、ケアプランに繋げモニタリングを行っている。申し送りノートの活用、会議での意見、情報交換等を行っている。	本人・家族の思いや意見を聞き、申し送りノートも活用して、毎月の会議でアセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。尚、4ヶ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの記録および申し送り等で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望した場合は外泊や外出をしている。相談や要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の祭り、イベントへの参加。避難訓練や運営推進会議の実施。ホームの行事にボランティアの方にも参加協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は血圧測定などのデータを持参するなど、なるべく多くの情報提供をしている。また家族が受診の付き添いをする場合でも、医師に手紙を書いて情報を提供し、家族の安心に繋がるよう努めている。	月に1～2回の協力医療機関への受診には職員が同行し、情報の把握に努めており、他の科を受診時は家族が付き添い、情報を提供して適切な医療を受けられるよう支援している。また、事業所の看護師が24時間対応してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームで看護師を確保し、日常的に入居者の健康把握に努めている。また受診時には情報提供を行っており、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々面会に行き状態を聞いたり、看護師または、ご家族からの情報も得ながら、早期退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の方針説明を行い、家族に書面にて意向を確認している。 今年度から委員会を中心に事業所として安心した最期を迎えられるよう取り組みを始めた。	重度化や終末期についての対応は、入居契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。看取り委員会で勉強会をするなどして、支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、一斉通報システムを導入している。定期的にホームの研修会として、消防署主催の普通救急救命講座・AED講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。消防署指導の下、初期消火訓練や夜間想定での避難訓練を実施している。地域の方にも、一斉通報システムに登録していただき、避難訓練に参加して頂いている。	地域や消防署と連携を取り、参加・協力を得ながら、事業所独自の一斉通報システムの操作方法や消火器の使い方も含めた避難訓練を定期的に行っている。地震時のガラス散乱を考慮して、居室にスリッパを用意するなど避難できる方法を身につけるよう務めている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の身体・精神面・生活歴などを把握し、状況に応じた声掛けや対応を行うように心がけている。プライバシー保護の為、メモ等はシュレッダー処理している。	各居室に洗面所とトイレが設置され、プライバシーに配慮している。また、日頃から、一人ひとりの思いを尊重した声かけや対応を行うよう努めている。	居室の設備面でプライバシーの配慮がなされているが、人格の尊重なども含め、OJTによる研修会を実施するなどして、意識の周知徹底を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立の希望を週に一度聞いている。外出も本人の意思を確認してから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	担当職員が中心となり24時間支援シートを作成し、本人の思いを反映させ一人一人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いきつけの美容室へ定期的に行っている各自室に鏡やヘアブラシがあるので自由に身だしなみを整えている。化粧品も用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望を聞き、献立に反映するようにしている。調理の際には、作り方を聞いたり、味見をして頂いたりしている。後片付けや買い物も手伝って頂いている。	利用者も週に1度のメニュー会議に参加して、希望を取り入れた献立にしている。近所から季節の野菜や山菜の差し入れを使った料理や手作りの漬物、おはぎがあったり、中庭でジンギスカンをしたりと食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量、形態、嗜好の好み等で提供し、ている。水分は日中2～3時間おきにとってもらっている。献立は栄養バランスを考え、野菜を多く取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをしたり、自分で行うことが困難な方には、その人に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のリズムの把握に努め、日常の仕草や様子からさり気なく声かけ、誘導に心がけている。	記録や申し送りノートを参考に情報を共有して、一人ひとりの仕草や表情などからも排泄パターンの把握に努めてトイレでの自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないよう、野菜のおかずを多く取り入れセンナ茶や起床時に牛乳を提供する等している。下剤の調整は、排便の状況を確認しながら看護師に相談し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週3回、入浴を実施しており、一人一人の状態に合わせて温度設定、入浴時間を心掛けている。温泉にも出かけている。	浴槽はヒノキ柄で、入浴は週3回としているが、利用者の希望や状況に応じて臨機応変に対応している。時には温泉に出かけ入浴を楽しむよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースには、ソファやひざ掛けを用意している。傾眠されてる際には、居室で休んで頂くよう声かけしている。夜間は安眠していただくよう静かな環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況については、個々のファイルに管理しスタッフが確認できるようにしている。また、内容変更時には受診報告書に記載し、注意点について確認し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本情報を基に、縫い物、調理等の声かけをして職員と一緒にいたり、外食にも出かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望や気分に配慮し、散歩やドライブ、日常の買い物に出かけている。近所への散歩、ご家族との外食やお墓参りなど馴染みの場所への外出支援をしている。	一人ひとりの希望を聞いて、近所の庭を見物しながらの散歩や日常の買い物をしている。外出行事では弁当持参での花見や糠平ヘドライブ、日帰り温泉、パークゴルフ、カラオケ、ボーリングなど家族とも協力しながら支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理することが可能な方には小遣い程度ではあるが、ご家族了承のもと自分で現金を持たれている。外出や個人での買い物は個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応出来るようにしている。手紙等は切手購入や投函など、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾り、四季の様子がわかるようタペストリー・写真等を掲示し、季節感を取り入れている。	各ユニットで建物は別だが造りはほぼ同じで、共有空間は、採光や風通しもよく、不快を招くことがないように温湿度などにも配慮している。居間にはソファが並べられ、クッションや毛布があり横になりたくなるような居心地よい雰囲気になっている。大きな窓からウッドデッキが見え、開放的な感じになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、デッキ、小上がりと自由に過ごせる共用空間がある。リビングのソファでくつろげるよう毛布やクッション等も用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものを持ってきて頂くよう伝え、本人の馴染みのあるものを使用することで居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはトイレと洗面台、クローゼットが備え付けられており、入居時に馴染みのあるものを持参してもらって、落ち着いて過ごせるような環境作りに配慮している。安全に生活できるよう手すりも取り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に手作りの表札をつけたり、身体機能の低下に合わせて、手すりを設置したり居室の様態替えをしたり、見るとかえって混乱してしまう物を下げたり、できるだけ安全かつ自立した生活ができるよう工夫している。		